

あさひ
朝日遺跡

所在地 清須市ほか
(北緯 35 度 13 分 18 秒 東経 136 度 51 分 18 秒)
調査理由 名岐道路・県道高速清洲一宮線及び県道高速名古屋朝日線
調査期間 平成 19 年 1 月～平成 19 年 3 月
調査面積 767 m²
担当者 赤塚次郎



調査地点 (1/2.5万「清洲」)

調査の経過 本遺跡は愛知県清須市他に広がる愛知県下を代表する弥生時代の拠点的な大集落である。遺跡の中央部に存在する谷状地形をはさんで、北と南側に居住区が営まれ、さらにその周囲には広く墓域・生産域が展開する。調査は、名岐道路・県道高速清洲一宮線及び県道高速名古屋朝日線に伴う事前調査として、国土交通省愛知県道事務所・名古屋高速道路公社より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。本年度は、767 m²を対象として、06A区・06Ba区・06Bb区・06Bc区・06Bd区・06C区の6調査区を設定し、調査を行った。

調査の結果 今回の朝日遺跡の調査では、まず06A区において、谷地形を挟んで北側に展開する北集落を巡る外環濠を調査することができた。さらに、その南側に「逆茂木」設置用溝が巡ることをあらためて確認でき、この溝が洪水性の砂層によって覆われている点から、遅くとも高蔵式期において逆茂木用の溝の機能が消失したことが推測できる。

朝日遺跡の集落構成を考える上で、大変重要な要素である谷地形(谷A・B)。その幾つかの地点を調査し、具体的な堆積層の情報をえることができた。その中で特に、弥生時代中期末葉段階に洪水性の砂層が比較的厚く堆積し、集落を構成する幾つかの溝を破壊している可能性が指摘できる。洪水性の堆積層に包含した遺物によって、その年代を特定出来る可能性が高く、朝日遺跡の集落景観を考える上でも、大変重要な資料を得ることが出来た。特に06Bd区において、谷A内に人為的な高まりが存在し、その斜面から中期前半期を中心とした木製品・骨角器などが出土している。洪水性のシルト混じりの砂層は、これら中期前半期の包含層上位に堆積する。

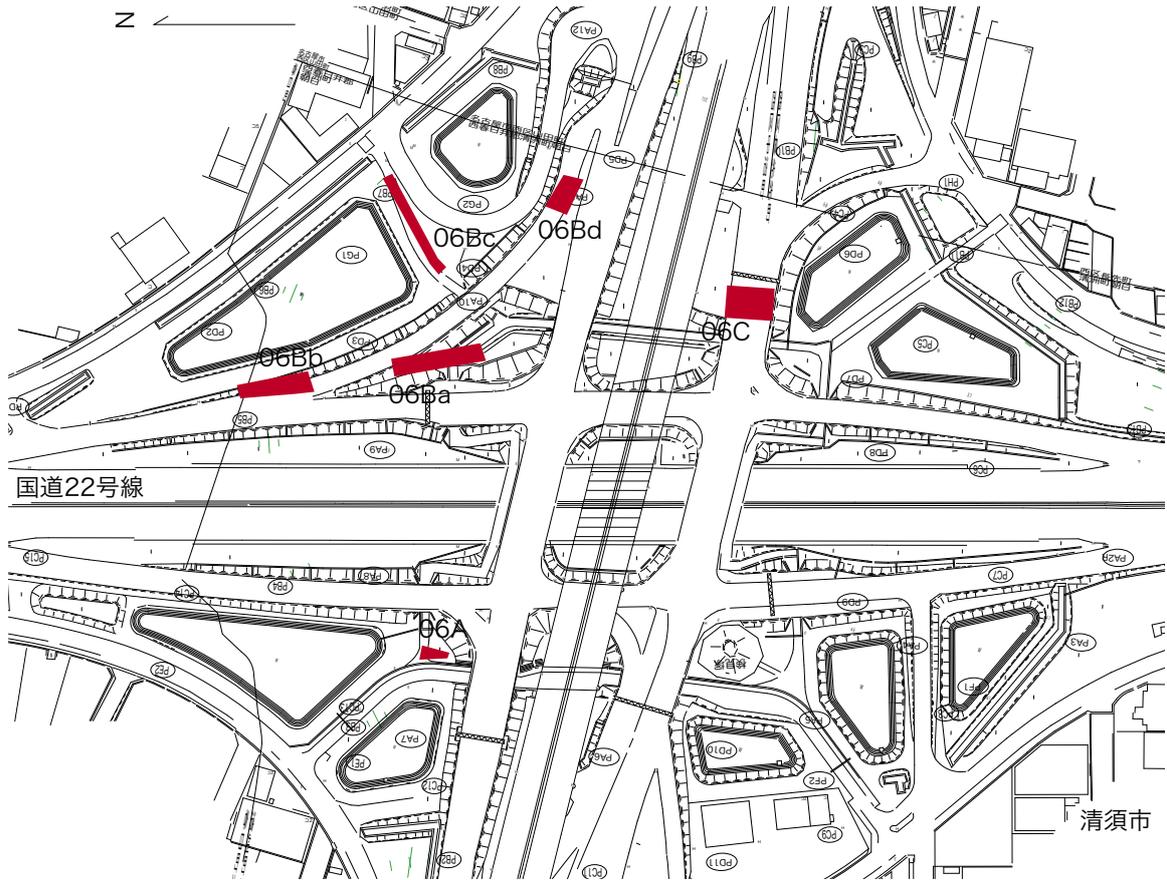
06Bc区では、高蔵式期に所属する土器棺墓および方形周溝墓が確認でき、墳形プランが溝の中央部に陸橋部を有する前方後方型になることが新たに確認できた。(赤塚次郎)



06A区地層堆積状況



06A区環濠



東名阪自動車道路

S=1:4000



06Bd区作業風景



06Bd区遺物出土状況



06Bd区作業風景



06C区作業風景